

日本臨床検査専門医会

平成 24 年度第二回常任幹事会議事録

平成 24 年 9 月 21 日

日本臨床検査専門医会 平成 24 年度第二回常任幹事会議事録

開催日時：平成 24 年 9 月 21 日（金）15 時 00 分～16 時 45 分

開催場所：日本臨床検査専門医会事務所

出席者：佐守 友博会長、木村 聡、小柴 賢洋各副会長、
池田 均、菊池 春人、佐藤 尚武、下 正宗、高木 康、
東條 尚子、米山 彰子、渡邊 卓各常任幹事、土屋 達行監事

欠席者：高橋 伯夫監事

事務局：市川 綾子、藤本 梨恵（敬称略）

定刻、佐守 友博会長挨拶の後、議長として佐守 友博会長を満場一致で選任した。議長は議長席につき開会を宣したのち、議案の審議に入った。

審議事項

第一号議案 議事録署名人選任について

議長は本会の議事録署名人の選出を議場に諮ったところ満場一致をもって次のものを選任した。

議事録署名人 下 正宗、渡邊 卓各常任幹事

報告事項

1. 全国幹事の交代について

佐守 友博会長より、小田桐恵美先生に代わり、東京女子医科大学病院臨床検査科 佐藤麻子先生、日野田裕治先生に代わり、山口大学医学部医学科臨床検査・腫瘍学分野の末広寛先生を任命したと報告があった。

2. 第 59 回日本臨床検査医学会学術集会における合同シンポジウムについて

議長は、第 59 回日本臨床検査医学会学術集会における、当会との合同シンポジウムについて、小柴 賢洋副会長に報告させた。小柴 賢洋副会長から、検体部門を中心に検査部門の管理について学びたい若手検査医や臨床検査管理医、病理医の先生方に役に立つシンポジウムを企画したとの報告があった。

記

シンポジウム 6 日本臨床検査専門医会/日本臨床検査医学会合同

日時：2012年11月30日（金） 16:20～18:20

場所：国立京都国際会館 第三会場（room D）

「検体検査管理加算に相応しい業務とは？ ～ここまではやっておきたい臨床検査専門医、臨床検査管理医の仕事」

司会：小柴 賢洋（兵庫医科大学 臨床検査医学）

木村 聡（昭和大学横浜北部病院 臨床病理診断科）

演者：

1) 大学病院の立場から

土屋 達行（日本大学医学部臨床検査医学分野 駿河台日本大学病院
臨床検査医学科 臨床検査部）

2) 一般病院の立場から

米川 修（聖隷浜松病院 臨床検査科）

3) 一般病院の立場から

村上 純子（埼玉協同病院 臨床検査科）

4) 病理医の立場から

岡部 英俊（滋賀医科大学病院 臨床検査医学）

5) 技師長の立場から

池田 勝義（熊本大学医学部附属病院 医療技術部 臨床検査部門）

以上

木村 聡副会長から、本企画は、特に臨床検査管理医や、生理や病理を専門とする臨床検査専門医に聴いてもらいたい。臨床検査管理医に案内状等を出して参加を促してはどうかとの提案があった。

この提案に対し、佐守 友博会長より、臨床検査管理医が属する日本臨床検査医学会に、連絡委員である東條尚子庶務・会計幹事を通じて依頼してみるとの説明があった。

3. 各委員会報告

① 情報・出版委員会

池田 均情報・出版委員長より報告があった。JACLaP News、WIREは順調に発刊している。LabCP 30巻1号は、「臨床検査に基づく院内感染対策活動」をテーマとし、7月10日に発刊した。LabCP 30巻2号は「臨床検査専門医のチーム医療への関わり」をテーマとして年内の発刊を予定している。

② 教育研修委員会

菊池 春人委員長より、11月に委員会を開いて来年度のセミナー等の方針を検討する予定である旨の説明があった。

③ 資格審査・会則改定委員会

渡邊 卓資格審査・会則改定委員長より第一回資格審査・会則改定委員会（8月3日開催）において検討された会則改定の骨子について以下の報告があった。

1) 会員を正会員（A会員、B会員）、賛助会員とする。学生会員は毎年0から1名とほとんど実績がないため廃止する。B会員の規定は付則に記載されているが、これを整理して、医師であること、且つ、臨床検査に係る業務に携わるかあるいは興味を持っているものとする。正会員は選挙権、議決権を持つ。会長、監事の被選挙権はA会員とする。副会長は会長を代行する立場にあることからA会員とする規定を新たに設ける。

2) 有効会員、名誉会員は会員の種類ではなく称号とする。70歳を超えた正会員は全員有効会員とする。本会に多大な貢献をした者は名誉会員とする。詳細は会則・細則等で定める。有効会員の年会費は5,000円とする。

3) 会長、副会長、監事、常任幹事、全国幹事は就任時に70歳未満の者とする。

4) 会長、副会長、監事、常任幹事、全国幹事の任期は1期2年とする。会長、副会長、監事は2期を限度とする。常任幹事、全国幹事は連続2期までとする。ただし、常任幹事、全国幹事は間を空けての再任は可とする。

5) 会長選挙の決選投票においては多数票を得たものを当選者とする。

6) 会長・監事選挙の結果は選挙管理委員長が公表して確定するものとする。

以上、大筋において承認いただければ、会則（案）を作成し、委員会で再度検討の後、幹事に案を提示してご意見を伺う。最終的に、11月29日の委員会で取りまとめ、同日の全国幹事会で審議していただき、承認が得られれば、総会に諮りたい。

高木 康常任幹事から、B会員の規定に日本臨床検査医学会の会員であることが設けられているのは、本会が、臨床検査専門医になってもらうための支援団体として作られた経緯があるため、その原点に鑑み、B会員は日本臨床検査医学会の会員としたいとの意見があった。

渡邊 卓委員長から、今の付則では、その後条件が緩和され、日本臨床検査医学会の会員でなくてもB会員になれる。日本臨床検査医学会の会員に限定す

ると、今よりも条件が厳しくなる。これについては、今後、さらに検討することとしたい旨の説明があった。

高木 康常任幹事から、副会長は選挙ではなく会長指名のため、幹事と同様に、連続 2 期までとし、間を空けての再任は可としてはどうかとの意見があり、承認された。

④ 渉外・広報委員会

木村 聡委員長より、7 月 20 日に東京ガーデンパレスにおいて開催された第 29 回臨床検査振興セミナーの報告があった。

⑤ 保険点数委員会

佐藤 尚武委員長より平成 24 年 9 月 11 日に開催された、日本臨床検査医学会臨床検査点数委員会との合同委員会について報告があった。現在、会員に対し、平成 26 年度診療報酬改定に向けて要望調査中である。積極的に要望を出してほしい旨の説明があった。

4. 専門医数増加方策検討 WG

三宅 紀子委員長に代わり、木村 聡副会長から以下の報告があった。ホームページを移設しディスク容量が確保できたことから、三宅 紀子先生、小倉加奈子先生がロールモデルとなって臨床検査専門医の紹介ページ案を作成中である。

5. 第 2 回臨床検査専門医・管理医審議会報告

東條 尚子連絡委員より、平成 24 年 8 月 26 日に開催された、第 2 回臨床検査専門医・管理医審議会について、今年度の第 29 回臨床検査専門医認定試験の結果、16 名の合格と、1 名の資格更新が承認されたと報告があった。

6. 第 3 回日本プライマリ・ケア連合学会における連携シンポジウムの報告

下 正宗常任幹事より、平成 24 年 9 月 1 日（土）、第 3 回日本プライマリ・ケア連合学会（福岡国際会議場）における、日本臨床検査専門医会との連携シンポジウム「R-CPC 臨床検査を患者のケアに生かす—検査値を読んで病態に迫る—」について報告があった。満席で立ち見が出るほどの盛況で、会場からは活発な意見が出された。来年は、仙台で行われる第 4 回学会のワークショップ公募枠に応募する予定であり、東北地方の専門医に協力してもらいたいとの報告があった。

7. 臨床検査振興協議会連絡事項

佐守 友博会長より、以下の説明があった。日本臨床衛生検査技師会が会員団体として正式に認められ、今後は日本臨床検査薬協会、日本衛生検査所協会、日本臨床検査医学会、日本臨床検査専門医会とともに 5 団体で活動していくことになった。当協議会には、医療政策委員会、広報委員会、編集出版委員会がある。医療政策委員会は診療報酬改定に合わせ、2年に1回、厚労省宛てに提言書をまとめている。医療政策委員会はWG-A(検体検査の臨床的価値とコスト)、WG-B(臨床検査の診療報酬の仕組み)、WG-C(検体検査の性能と診療報酬への反映)、WG-D(コンパニオン診断薬の審査・承認体制の整備)の4つのWGがあり、専門医会からは、WG-Aに東條 尚子常任幹事、WG-Bに木村 聡副会長、WG-Cに高木 康常任幹事、WG-Dに佐守 友博会長を委員として指名した。広報委員会には木村 聡副会長を委員として指名した。「11月11日検査の日」とともに、振興協議会のマークの掲載を奨励して広報活動を進めている。編集出版委員会は、American Association for Clinical Chemistry (AACC)が患者教育用としてホームページ上に掲載している Lab Test Online を翻訳し、日本語版を作る方向で検討中である。また、加盟団体が増えたこともあり定款の改定が検討されているとの報告があった。

8. 平成 25 年度 第 23 回春季大会について

大会長の渡邊 卓常任幹事より、第 23 回春季大会について説明があった。2~4人部屋が主体で、宿泊費参加費込で2万円超ぐらいを予定している。会員同士が知り合いになり、直接話ができるような全員参加型の企画にしたいので、ご意見等があれば、是非、提案してほしい。また、若い人材を連れて参加してほしいとの説明があった。

記

大会長 渡邊 卓 教授 (杏林大学病理系専攻 臨床検査医学分野)

開催日 : 平成 25 年 6 月 28 日(金)、29 日(土)

開催場所 : 湯本富士屋ホテル

250-0392 神奈川県足柄下郡箱根町湯本 256-1

TEL 0460-85-6111

以上

これに対し、30人ぐらいに分けてのグループ討議、グループ内での他己紹介などの意見が出された。

9. 第41回日本臨床検査専門医会総会における講演会について

議長は、第59回日本臨床検査医学会学術集会会期中に開催予定の第41回日本臨床検査専門医会総会における講演会について、東條 尚子庶務会計幹事に報告させた。本講演会は、臨時全国幹事会にて内容変更が承認され、以下となった。

記

講演内容：「これからの臨床検査を考える

-新しい日臨技と臨床検査振興協議会の歩みと今後-

司会：小柴 賢洋（日本臨床検査専門医会 副会長）

演者：宮島 喜文（一般社団法人日本臨床衛生検査技師会 会長）

渡辺 清明（臨床検査振興協議会 理事長）

以上

10. 日本臨床衛生検査技師会の未来構想委員会について

議長より、日臨技の未来構想委員会に、日本臨床検査専門医会から佐守 友博会長が外部委員として参加することとなり、第一回委員会が9月20日に開催されたと報告があった。

11. 事務局の事務員交代について

東條庶務会計幹事より、事務局の藤本梨恵さんが平成24年9月30日をもって退職し、市川綾子さんが後任となる旨の報告があった。

以上をもって全議案の審議並びに報告を終了したので、議長は閉会を宣し解散した。

議事録署名人

平成24年 10月 4日

下 正宗 印

平成24年 10月 15日

渡邊 卓 印